

## アンケート あなたはどんな葬儀を望みますか

## 調査報告

平成25年1月

(一社)札幌消費者協会 調査部

多くの方の協力のもと、葬儀についてのアンケートを実施できました。結果を報告いたします。

## 調査概要

調査期間：平成24年9月3日（月）～10月12日（金）

調査対象：札幌市民及び（一社）札幌消費者協会会員

調査方法：手渡し及び協会員は郵送

有効回答数：648名

## 調査結果

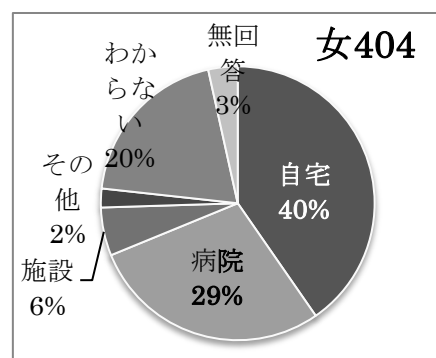
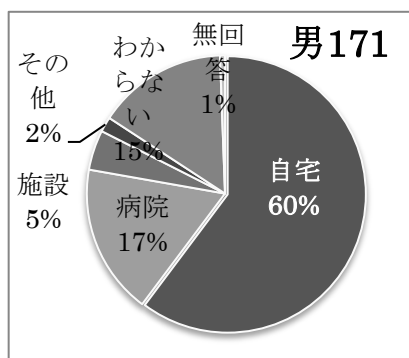
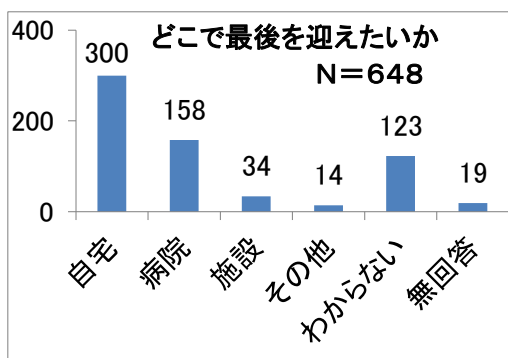
## 男女別

男	171	26%
女	404	63%
無回答	73	11%
合計	648	100%

## 年代別

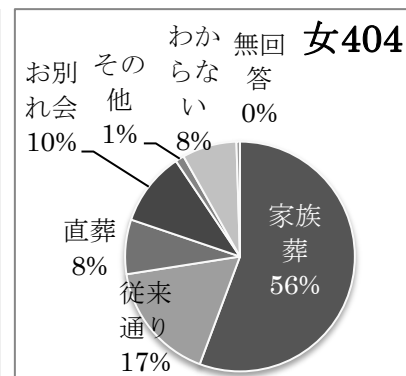
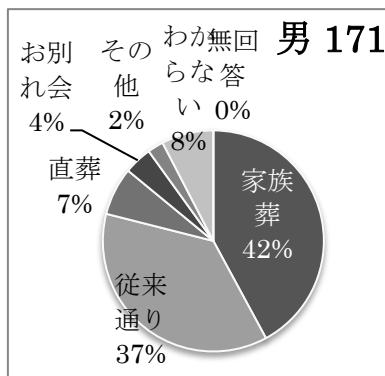
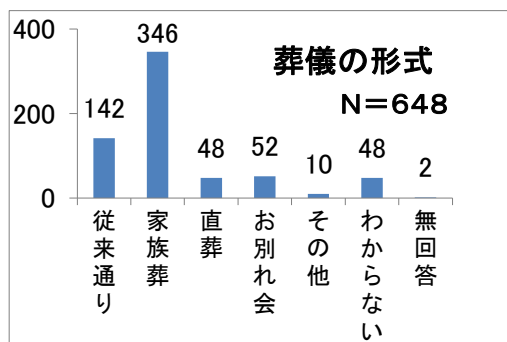
～30代	36	5%
40代	58	9%
50代	105	16%
60代	231	36%
70代	179	28%
80代～	39	6%
合計	648	100%

## 設問1 どこで最期を迎えたいですか



自宅と回答した人が全体の46%だった。男女別では男性の60%、女性の40%が自宅と回答し、男性は女性の1.5倍だった。また、病院と回答したのは男性17%、女性29%で女性の割合が高かった。

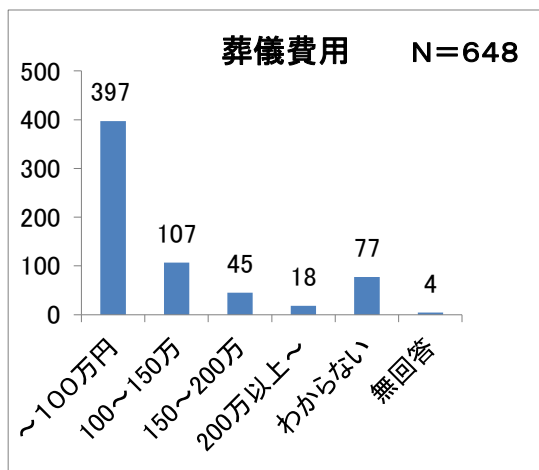
## 設問2 どんな形式の葬儀を望みますか



家族葬が53%、次いで従来通り22%となった。東京都内では3割とされている直葬は7%だった。男女別では、家族葬は、男性42%、女性56%、従来通りは男性37%、女性17%で、男性に従来の形にこだわる傾向が見られた。

※注 毎日新聞2012/6/19の記事より

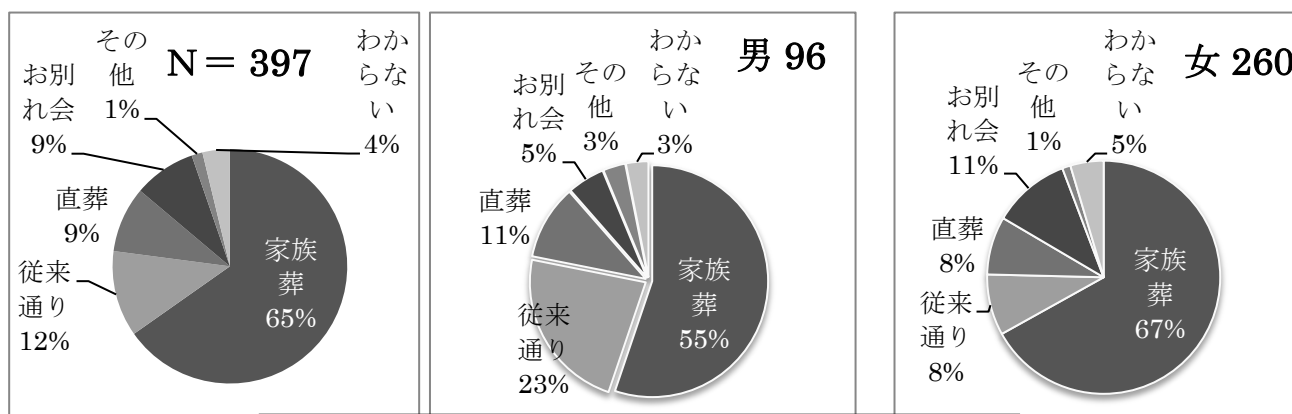
### 設問3 葬儀費用をどのくらいかけたいですか



#### 100万円未満と回答した人を年齢別にみると

	回答数	100万とした人の数	
~30代	36	16	44%
40代	58	39	67%
50代	105	77	73%
60代	231	153	66%
70代	179	95	53%
80代~	39	17	44%

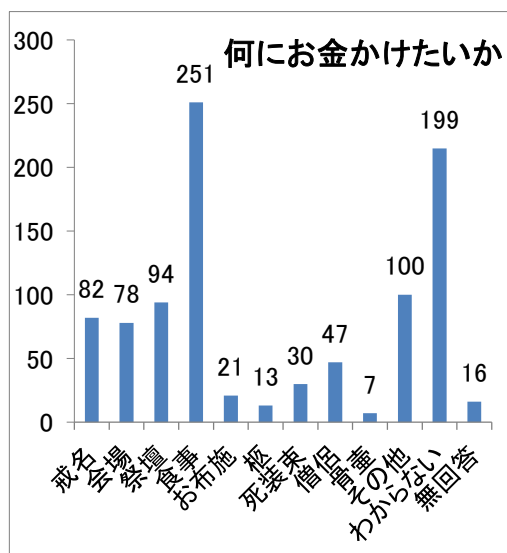
100万円未満が61%、次いで100万円~150万円が17%だった。100万円未満と回答した人を年齢別に見ると、50代が73%で最も高く、40代67%、60代66%と続いた。また、100万円未満とした人が望む葬儀の形（下記に並べた3表を指す）は、家族葬65%で、全体の53%に比べ高かった。一方、従来通りは12%で、男女別では、男性は女性に比べ従来通りを望む割合が高かった。



※N=397には性別無回答を含むため合計は一致しない

### 設問4 何にお金をかけたいですか（3つまで）

食事と回答した人が最も多く、次いで多かったのはわからないだった。これは何にお金がかかるかわからないからではないかと思われる。わからないと回答した199人を年代別にみると、40代までの人の割合が高く、年代的に葬儀への関心が低いためと思われる。さらに、その他と回答した100人のうち26人が、お金をかけない、かけたくないと述べている

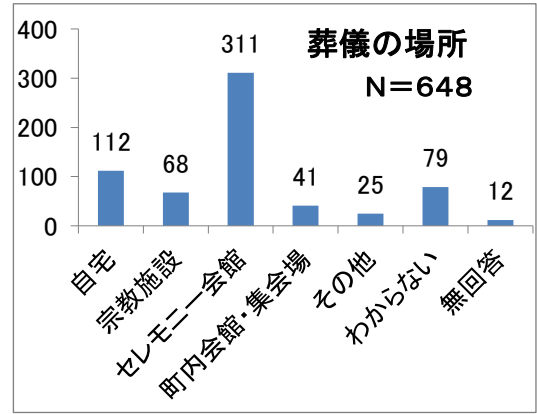


N=648

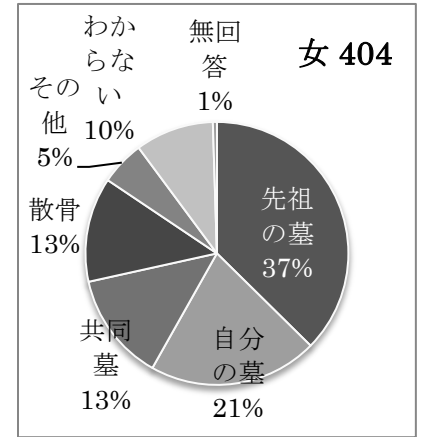
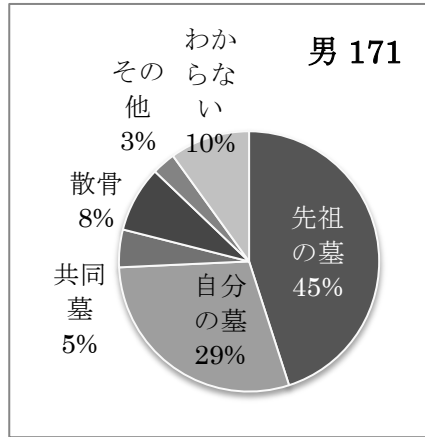
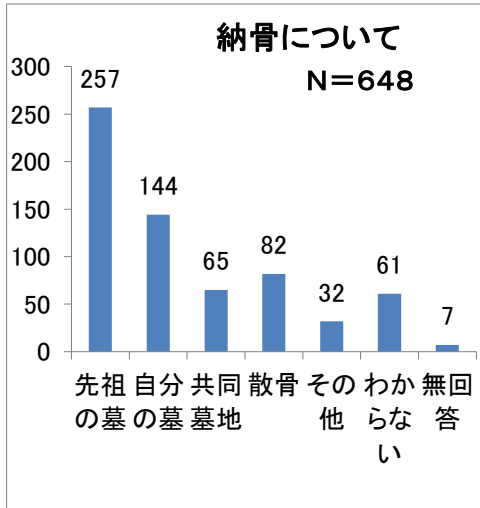
	回答数	男	女	不明	合計	
		47	130	22	199	
30代	36	8	10	0	18	50%
40代	58	7	24	0	31	53%
50代	105	6	23	6	35	33%
60代	231	10	46	4	60	26%
70代	179	14	23	10	47	26%
80代	39	2	4	2	8	21%

設問5 どのような場所で行いたいですか

セレモニー会館が48%で、次いで自宅17%だった。  
その他の25名の中には葬儀なし、直葬との回答が複数回答あった。



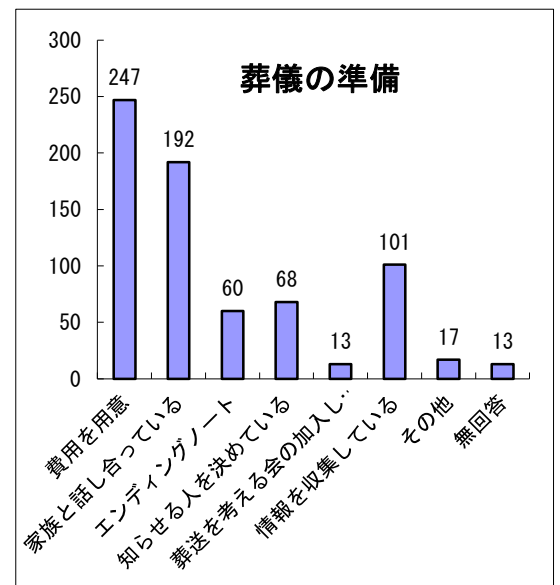
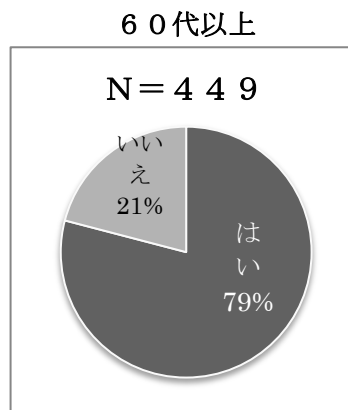
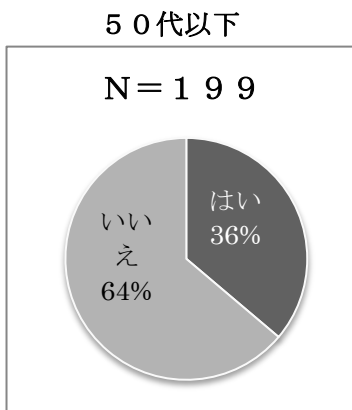
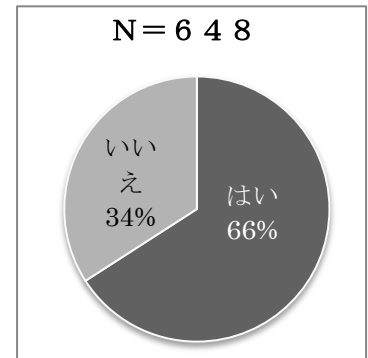
設問6 納骨をどのように考えていますか



先祖の墓、自分の墓を合わせると62%の人が家の墓を希望しているが、これを男女別にみると、先祖の墓は男性45%、女性37%、自分の墓は男性29%、女性21%となり男性が家の墓を望む割合が高かった。一方共同墓、散骨は女性の割合が高かった。

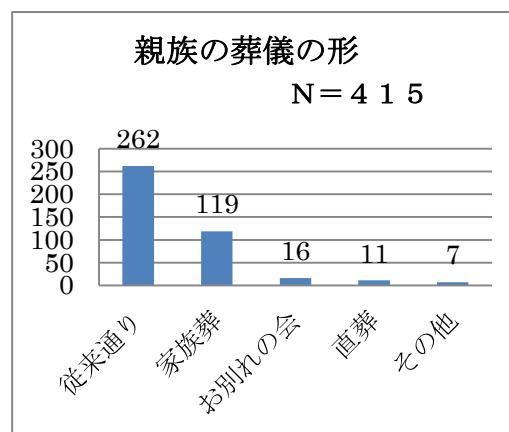
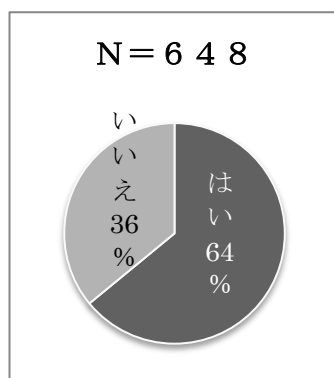
設問7 ご自分の葬儀の準備をしていますか

はい66%、いいえ34%だった。50代までの199人のうち  
はいと回答した人は36%だったのに対し、60歳以上では449人のうち79%の人がはいと回答した。また、準備の内容では、費用を用意している、家族と話している、情報収集している、の順となった。



### 設問8 親族の葬儀を経験した方のみお答えください。

ここ5年以内に親族の葬儀を経験した人は64%だった。はいと回答した人が行った葬儀の形は従来通り63%、家族葬29%で、設問2の自分の葬儀の場合とほぼ逆転した。



### まとめ

送る側としても、送られる側としても誰もが直面しなければならない葬儀。

アンケートの結果、回答者の6割以上の方が自分の葬儀について考え、準備していることが分かった。

従来200万～300万円といわれていた葬儀費用だが、自分の葬儀では100万円未満とする人が6割を占め、家族葬を望む人が5割を超えた。

経費をかけずに小規模にと考えていることがみてとれる。これは、葬儀費用の不透明さや葬儀に関する情報が増えていること等が背景にあると思われる。しかし、設問8の親族の葬儀では、「従来通り」と回答した人が6割以上を占めたが、設問2の自分の葬儀では「従来通り」は2割だった。

アンケートでは親族の葬儀でなぜ「従来通り」の葬儀を選択したのかは不明だが、親族の葬儀で困ったこととして、落ち着かない中であれこれ判断を求められ、葬儀社リードで進められたという意見が多数見られたことから、いざという時の判断の難しさがうかがえる。

男女ともに自宅で最期を迎えたいと望む割合が高かったが、現実には病院で最期を迎える場合が8割以上（北海道新聞 2012年8月5日の記事より）となっている。

病院で最期を迎えた場合、病院からの搬送をどこに依頼するかを早急に決めねばならず、葬儀社が決まっていることが望ましい。直葬という最も簡素な方法であっても、火葬場への搬送は納棺の状態であることが必要なため、葬儀社なしでは行えず、葬儀社に関する情報収集は不可欠といえる。

送る側が後悔しない葬儀を行うためにも、自分の葬儀について考え、考えを記録し、家族と話し合っておくことが望まれる。特に散骨や直葬などの、まだよく知られていない葬儀を希望する場合は、方法や費用、リスクなどについて把握し家族の了解を得ることが大切だ。また、設問7で知らせる人を決めていると回答した人は10%だったが、遺族にとっては、葬儀の規模を決める上でも、誰にどの時点で知らせるかを判断する上でも残して欲しいものである。

葬儀事情に関心を持ち話題にすることで、良い別れの時間を過ごせることになるのではないだろうか。

### 葬儀に関するミニ情報

- ☆必ず必要な費用 ～ 棺・骨箱・遺体搬送費（病院→自宅→葬儀場）・霊柩車（葬儀場→火葬場）
- ☆戒名 ～ 無宗教なら必要ない。民間霊園、市営墓地は戒名なしでも納骨問題なし  
壇家となっている寺院があり、墓も寺院が管理＝戒名なしでは納骨を断られることもあるので確認を。
- ☆祭壇 ～ 仏式・・・本尊と仏具の設置スペース必要  
無宗教・・・自由（いる、いらぬどちらでも） NPO法人 葬送を考える市民の会の出版物より